

令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業  
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 伊万里市 (都道府県: 佐賀県)

1.当該地域の情報(令和5年1月現在)

地域の課題	伊万里市においては、社会環境等の変化を踏まえ、将来向かうべきまちづくりの指針となる「第6次伊万里市総合計画」を策定したところであり、人口減少社会への対応を重点施策として取組の柱に据え、事業の展開を図っている。その中では、外国人の受け入れと多文化共生社会の構築がきわめて重要な政策である。今後、外国人への日本語教育を如何に充実していくかが、地域の大きな課題であると思われる。
在住外国人数 外国人比率	589人 1.1%
在住外国人の 状況	【主な国籍と人数】インドネシア246人、ベトナム126人、中国50人、フィリピン41人、韓国36人、ミャンマー23人、スリランカ16人、パキスタン14人、朝鮮9人、米国8人。(R5/1/1) 【在留資格】技能実習3号口147人、技能実習1号口128人、特定技能1号81人、永住者51人、技能実習2号口45人、特別永住者38人、技術・人文知識・国際業務25人、日本人の配偶者等19人、家族滞在19人、特定活動17人。(R5/1/1) 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生が全体の68%を占めており、原則、在留期間は3年である。3年連続のコロナ禍の影響で、入国ができないため、技能実習生の数が半減したが、アフター・コロナになれば再び増えていく見込みである。
在住外国人の 日本語教育の現状	技能実習生:各監理団体によると、来日前、自国で日本語教育(初級)を受け、来日後は主に生活適応等に関する研修を行っている。その他の在留資格者については、以下のアンケートから、その現状を窺えると思われる。 参考:2020年9月1日から10月9日まで、伊万里市在住外国人を対象にアンケートを実施した。配布150枚、回収103枚、有効サンプル数100枚。このアンケートのQ5「あなたは現在、日本語を勉強していますか」への回答は、「一人で勉強している」(38人)、「日本人の知り合いに教えてもらっている」(27人)、「職場・学校の日本語教室で勉強している」・「勉強していない」(15人)、「日本語教室で勉強している」(6人)、「家族から教えてもらっている」(2人)となっている。

2.事業の内容

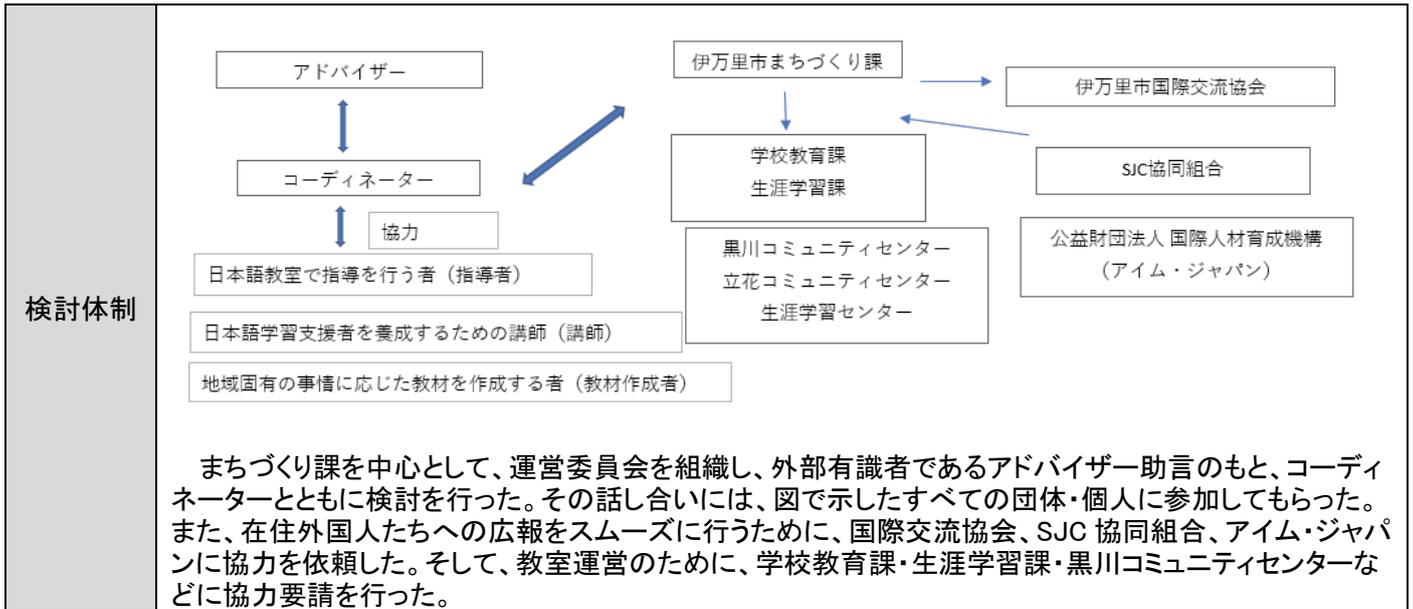
本プログラム取組年数	3年目
事業の目的	市在住外国人が伊万里市で生活・就職するには、母国での視点で生活することだけではなく、日本の文化や習慣などを知り、地域の中で円滑に日本社会に適応するための方法を身に付ける必要がある。実生活の事例を通して学び、また、多様な年代の日本人とふれあうことによって、学習と交流の楽しさと魅力を感じてもらえる日本語教室を作りたいと考えている。外国人住民が伊万里市の一員として、自立した生活を送ることができるようになることを目的としている。
事業の概要	これまで、生涯学習センターで日本語教室が開催されてきたが、多くの外国人が居住する黒川町(在住外国人280人、外国人総数の47.5%を占める、R5/1/1)から約10キロも離れていることから、移動手段が自転車しかない技能実習生にとっては、通うのが困難な距離となっており、参加者が年々減っている。より多くの在住外国人が伊万里市民として、円滑な生活を送ることができるよう、「地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用した「日本語教室 Awesome IMARI」を、黒川町を中心に開催するよう計画した。 3年間を通じて、伊万里市在住の「生活者としての外国人」に対して、日本語教育プログラムを実施するものである。初年度は主に情報収集とニーズ調査を行ったうえで、教室を3回:「挨拶と自己紹介」、「日本の正月」、「日本の楽器」を開催した。2年目はアンケート調査の結果に基づき、「交通安全」、「市役所」、「ワクチン接種」などをテーマとして、教室を5回開催した。3年目は、日本語教室「Awesome IMARI」を8回:「防災」、「郵便局」、「銀行」、「バス教室」などを開催し、教室運営の安定化を目指した。
事業の対象期間	令和4年6月～令和5年3月

<p>前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)</p>	<p>① アドバイザー会議 10 回 ② コーディネーター会議 19 回 ③ 多文化共生フェスタにおける広報活動(10月17日～23日) ④ 企業訪問活動(3回):7月6日、9月22日、12月13日 ⑤ 日本語指導者養成講座(8回):9月13・17日・10月19・20日・11月1・5日・12月6・10日 ⑥ 多文化共生関連講座(3回):10月20・29日・11月8日 ⑦ 日本語教室5回:7月11日・9月5日・10月3・31日、令和4年1月23日</p>			
<p>担当コーディネーター</p>	<p>氏名</p>	<p>所属</p>	<p>職名</p>	<p>担当する役割</p>
	<p>章 潔</p>	<p>伊万里市まち づくり課</p>	<p>多文化共生マネー ジャー</p>	<p>関係機関との連絡・調整、日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成、事業の総括</p>
	<p>中村 章</p>	<p>日本語教室い まり</p>	<p>日本語サポーター</p>	<p>地域住民への意識啓発、関係機関との連絡・調整、日本語教室のPR、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成</p>
	<p>田中 亮子</p>	<p>日本語教室い まり</p>	<p>日本語サポーター</p>	<p>日本語教室の企画・立案、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成</p>
	<p>中村 多美子</p>	<p>日本語教室い まり</p>	<p>日本語サポーター</p>	<p>学習ニーズの把握、地域住民への意識啓発、学習環境の整備、関係機関との連絡・調整、日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成</p>
	<p>喜々津 珠美</p>	<p>日本語教室い まり</p>	<p>日本語サポーター</p>	<p>学習環境の整備、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成</p>
	<p>福井 英行</p>	<p>伊万里陶芸教室</p>		<p>地域住民への意識啓発、日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成</p>
	<p>橋口 京子</p>	<p>伊万里市文化 連盟</p>	<p>理事</p>	<p>学習ニーズの把握、地域住民への意識啓発、日本語教室のPR、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成</p>

	腰 優子	日本語教室い まり	日本語サポーター	学習環境の整備、日本語教室 の準備・実施、日本語教室のカ リキュラム・学習教材の作成
	鶴田 クリスティーナ	日本語教室い まり	日本語サポーター	日本語教室のPR、日本語教室 の企画・立案、日本語教室の準 備・実施、日本語教室のカリキ ュラム・学習教材の作成
	小島 利津	伊万里市日中 友好協会	事務局長	学習環境の整備、日本語教室 の企画・立案、日本語教室の準 備・実施、日本語教室のカリキ ュラム・学習教材の作成
	吉村 恭太	山代第一運輸		地域住民への意識啓発、日本 語教室のPR、日本語教室の企 画・立案、日本語教室の準備・ 実施、日本語教室のカリキュラ ム・学習教材の作成
	松本 裕史	県立嬉野高等 学校	非常勤講師	学習ニーズの把握、学習環境 の整備、日本語教室の準備・実 施、日本語教室のカリキュラム・ 学習教材の作成
	山下 由美	JA いまり	技能実習生指導員	学習ニーズの把握、地域住民 への意識啓発、学習環境の整 備、日本語教室の準備・実施、 日本語教室のカリキュラム・学 習教材の作成
	カルドノ サバル	名村造船所	技能実習生指導員	学習ニーズの把握、日本語教 室のPR、日本語教室の企画・ 立案、日本語教室の準備・実 施、日本語教室のカリキュラム・ 学習教材の作成
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	西原 鈴子	特定非営利活 動法人日本語 教育研究所	理事長	継続・新規(3年目)
	仙田 武司	公益財団法人 しまね国際セン ター	多文化共生推進課 長	継続・新規(3年目)
	高柳 香代	多文化共生ネ ット・九州	主宰	継続・新規(3年目)

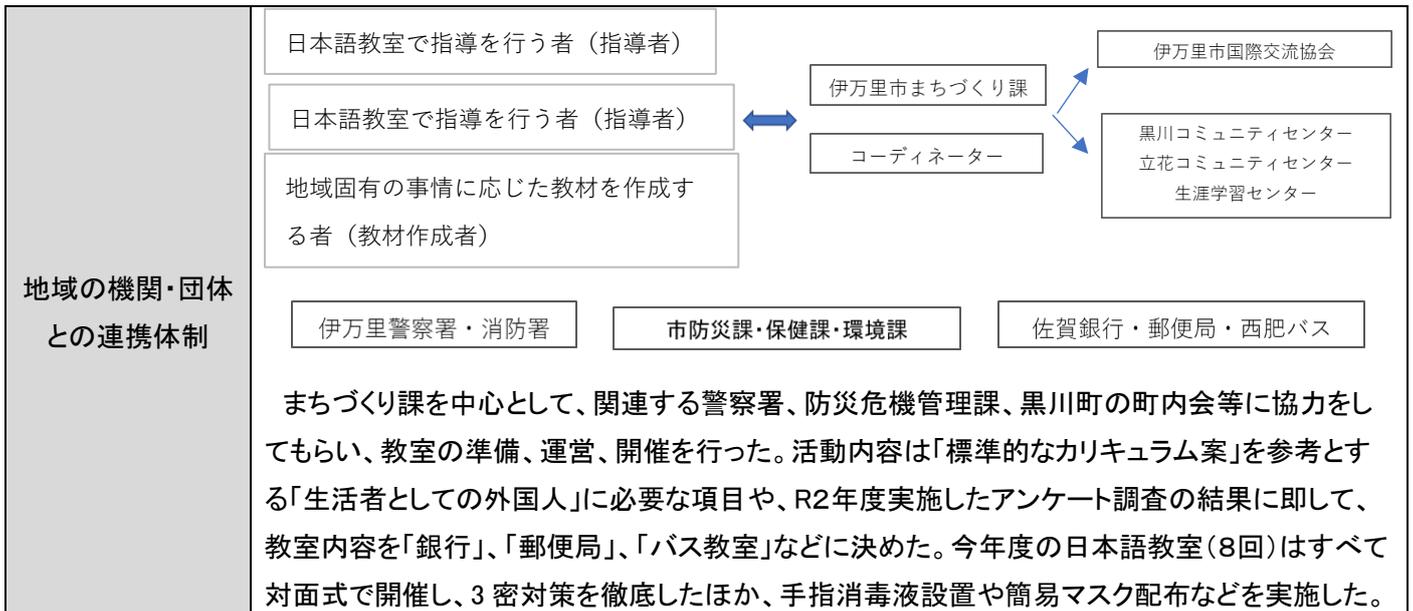
### 3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

#### (1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



所属(担当課)	職名	担当者名
まちづくり課	課長	木寺 洋司
学校教育課	課長	中尾 聡彦
生涯学習課	課長	川口 幹夫
黒川コミュニティセンター	センター長	力武 浩和
立花コミュニティセンター	センター長	力武 善人
生涯学習センター	館長	川口 幹夫
伊万里市国際交流協会	事務局長	木寺 洋司
SJC 協同組合	事務長	黒田 良彦
公益財団法人国際人材育成機構（アイム・ジャパン）	課長	木村 護

#### (2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



また、日本語教室支援者・サポーターの発掘に当たっては「日本語教室いまり」等と協力し、引き続き「指導者養成講座」(全8回)を開催した。主に在住外国人の日常生活に要する日本語を指導、支援できる者の育成に取り組んだ。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
伊万里市	防災危機管理課	課長	土井 清隆
伊万里市	黒川コミュニティセンター	センター長	力武 浩和
伊万里市	立花コミュニティセンター	センター長	力武 善人
伊万里市	生涯学習センター	館長	川口 幹夫
伊万里市国際交流協会	事務局	事務局長	木寺 洋司
日本語教室いまり	事務局	代表	田中 亮子
伊万里市警察署	警備課	巡査長	田中 裕二

#### 4. 具体的な取組内容

##### (1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月	コーディネーターの確保、日本語教室計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連絡・調整</li> <li>日本語教室の企画・立案</li> <li>事前学習</li> </ul>	
令和4年 5月	コーディネーターの確保、日本語教室計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連絡・調整</li> <li>日本語教室の企画・立案</li> <li>事前学習</li> </ul>	
令和4年 6月	16日:事業オリエンテーション 21日:コーディネーター会議①、 内容:(1)R4年度事業の流れ、② 日本語教室の内容及び実施日、 ③コーディネーターの役割分担、 ④教材づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習環境の整備</li> <li>日本語教室の企画・立案</li> </ul>	
令和4年 7月	7日:アドバイザー会議① 12日:コーディネーター会議②、 内容:(1)事業計画書の修正、 (2)第1回日本語教室の参加者募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習環境の整備</li> <li>日本語教室の企画・立案</li> </ul>	遠隔1回(西原、仙田、高柳) 7日:アドバイザー会議①、内容:(1)新規コーディネーターの紹介、(2)②R4計画書の審議
令和4年 8月	4日:企業訪問活動①:佐賀銀行伊万里支店、内容:日本語教室講師依頼(事務局) 22日:コーディネーター会議③、 内容:(1)多文化共生関連講座の実施、(2)今年度のスケジュール、(3)第1回日本語教室の役割分担 22日:企業訪問活動②:名村造船所、内容:日本語教室参加依頼(事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民への意識啓発</li> <li>学習環境の整備</li> <li>関係機関との連絡・調整</li> <li>日本語教室のPR</li> <li>日本語教室の準備・実施</li> <li>日本語教室のカリキュラム、学習教材の作成</li> </ul>	

<p>令和4年  9月</p>	<p>2日:コーディネーター会議④、内容:(1)防災ワークショップの流れ、(2)第1回日本語教室の流れ(3)教室の教材、学習シート 4日:多文化共生関連講座①:「外国人住民と共に地域防災を考える」 4日:第1回日本語教室、内容:「伊万里の防災について」 6日:アドバイザー会議② 8日:コーディネーター会議⑤、内容:(1)第2回日本語教室の流れ、(2)役割分担、(3)教室の教材、学習シート 22日:コーディネーター会議⑥、内容:(1)第2回日本語教室の参加者人数の確認、(2)会場までの学習者の送迎確認、(3)「郵便物等ご不在等連絡票」の学習について 25日:第2回日本語教室、内容:「伊万里の郵便局について」 27日:アドバイザー会議③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への意識啓発</li> <li>・学習環境の整備</li> <li>・関係機関との連絡・調整</li> <li>・日本語教室の準備・実施</li> </ul>	<p>遠隔2回(西原、仙田、高柳) 6日:アドバイザー会議②、内容:(1)伊万里市在住外国人状況の報告、(2)第1回日本語教室の報告・反省会 27日:アドバイザー会議③、内容:(1)第2回日本語教室の報告・反省会、(2)アドバイザーの伊万里派遣の日程</p>
<p>令和4年  10月</p>	<p>3日:コーディネーター会議⑦、内容:(1)第3回日本語教室の流れ、(2)教材、学習シート、(3)指導者養成講座の参加について、(4)アドバイザーの訪問日程の確認 7日:コーディネーター会議⑧、内容:(1)第4回日本語教室の教習内容、(2)第4回日本語教室の準備 9日:第3回日本語教室、内容:「伊万里の銀行について」 10日:アドバイザー会議④ 13日:実施団体情報交換会参加・グループ発表 20日:第1回日本語指導者養成講座、内容:「ZOOM ミーティングの使い方について」 21日:第2回日本語指導者養成講座、内容:「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の目的・目標」 28日:コーディネーター会議⑨、内容:(1)第4回日本語教室の流れ、(2)役割分担、指導計画 30日:第4回日本語教室、内容:「日本人との交流①『バザーでものを売る』」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への意識啓発</li> <li>・学習環境の整備</li> <li>・日本語教室のPR</li> <li>・日本語教室の企画・立案</li> <li>・日本語教室の準備・実施</li> <li>・日本語教室のカリキュラム、学習教材の作成</li> </ul>	<p>遠隔1回(西原、仙田、高柳) 10日:アドバイザー会議④、内容:第3回日本語教室の報告・反省会</p>
<p>令和4年  11月</p>	<p>8日:アドバイザー会議⑤ 10日:コーディネーター会議⑩、内容:(1)第5・6回日本語教室の内容について、(2)買い物リストの作成、③アドバイザー派遣の日程 17日:コーディネーター会議⑪、内容:(1)第5回日本語教室の流れ、(2)教室の参加者について 18日:第3回日本語指導者養成講座、内容:「伊万里市の多文化共生について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ニーズの把握</li> <li>・地域住民への意識啓発</li> <li>・関係機関との連絡・調整</li> <li>・日本語教室のPR</li> <li>・日本語教室の企画・立案</li> <li>・日本語教室の準備・実施</li> <li>・日本語教室のカリキュラム、学習教材の作成</li> </ul>	<p>遠隔1回(西原、仙田、高柳) 8日:アドバイザー会議⑤、内容:(1)第4回日本語教室の報告・反省会、(2)第5・6回日本語教室の準備の報告  ★伊万里市派遣1回(仙田、高柳) 23日:内容:「第6回日本語教室『バスに乗っ</p>

	<p>20日:第5回日本語教室、内容:「バスに乗って、買い物に行こう①」</p> <p>22日:コーディネーター会議⑫、内容:(1)第6回日本語教室の役割分担、(2)教室の参加者について</p> <p>23日:第6回日本語教室、内容:「バスに乗って、買い物に行こう②」</p> <p>24日:①アドバイザー会議⑥ ②佐賀県国際課とのヒアリング</p> <p>24日:第4回日本語指導者養成講座、内容:「地域日本語教育の実施体制と支援者の役割」</p> <p>28日:コーディネーター会議⑬、内容:(1)第7回日本語教室の学習内容、(2)アドバイザー派遣(12月)について</p>		<p>て、買い物に行こう②』の視察」</p> <p>24日:①アドバイザー会議⑥、内容:(1)第5・6回日本語教室の報告・反省会(高柳)</p> <p>24日:佐賀県国際課(北御門織絵氏)とのヒアリングに参加、情報交換</p>
<p>令和4年</p> <p>12月</p>	<p>12日:第5回日本語指導者養成講座、内容:「初級者への指導法や教材について」</p> <p>18日:第7回日本語教室、内容:「日本人との交流②『門松を作ろう』」</p> <p>19日:第6回日本語指導者養成講座、内容:「中上級者への指導法や教材について」</p> <p>20日:アドバイザー会議⑦</p> <p>21日:企業訪問活動②:伊万里市農業協同組合(JA伊万里)、内容:西原アドバイザーと、農協の技能実習生の担当者、監督団体、コーディネーターと地域日本語教室の在り方について情報交換(事務局)</p> <p>22日:アドバイザー会議⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への意識啓発</li> <li>・関係機関との連絡・調整</li> <li>・日本語教室のPR</li> <li>・日本語教室の企画・立案</li> <li>・日本語教室の準備・実施</li> <li>・日本語教室のカリキュラム、学習教材の作成</li> </ul>	<p>★伊万里市派遣1回(西原)</p> <p>20日:アドバイザー会議⑦、内容:(1)第5・6回日本語教室の報告・反省会、(2)コーディネーターの質問に解答、(3)教材づくりについての指導</p> <p>21日:企業訪問活動②</p> <p>遠隔1回(西原、仙田、高柳)</p> <p>22日:アドバイザー会議⑧、内容:第7回日本語教室の報告・反省会</p>
<p>令和5年</p> <p>1月</p>	<p>17日:①コーディネーター会議⑯、内容:(1)第8回日本語教室の役割分担、(2)第8回日本語教室の流れ</p> <p>②市長面会</p> <p>17日:多文化共生関連講座②:「持続可能な地域日本語教室を目指して」</p> <p>23日:第7回日本語指導者養成講座、内容:「教案の作成」</p> <p>29日:第8回日本語教室、内容:「日本人との交流③『国際交流ひろば』」</p> <p>29日:第8回日本語指導者養成講座、内容:「日本語教室Awesome IMARIを見学しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への意識啓発</li> <li>・関係機関との連絡・調整</li> <li>・日本語教室のPR</li> <li>・日本語教室の企画・立案</li> <li>・日本語教室の準備・実施</li> <li>・日本語教室のカリキュラム、学習教材の作成</li> </ul>	<p>★伊万里市派遣1回(西原、仙田、高柳)</p> <p>(1)コーディネーター会議⑯を傍聴</p> <p>(2)多文化共生関連講座②</p> <p>(3)市長面会</p> <p>①参加者紹介</p> <p>②アドバイザー報告</p> <p>③市内企業・技能実習生受入管理団体の感想</p> <p>④コーディネーターの感想</p> <p>⑤市長の謝辞</p>
<p>令和5年</p> <p>2月</p>	<p>27日:多文化共生関連講座③:「①伊万里市の多文化共生について、②ゴミの分別について」</p> <p>28日:アドバイザー会議⑨</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への意識啓発</li> <li>・関係機関との連絡・調整</li> <li>・日本語教室のPR</li> </ul>	<p>遠隔1回(西原、仙田、高柳)</p> <p>28日:アドバイザー会議⑨、内容:(1)第8回日本語教室の報告・反省会、(2)報告書について</p>
<p>令和5年</p>	<p>6日:文化庁実施団体情報交換会(グループ別発表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の総括</li> </ul>	

3月	・事業評価およびまとめ		
----	-------------	--	--

## (2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	日本語教室「Awesome IMARI」						
外国人参加者について	[国籍]インドネシア 22 名, ベトナム 11 名, 中国 5 名, フィリピン 4 名, 韓国 2 名, タイ 1 名, ミャンマー 1 名, ケニア 1 名, コロンビア 1 名。 [属性]技能実習生、特定活動、技術・人文・知識などの在留資格を持つ人が主な対象。						
参加者数 (内 外国人数)	受講者 122 名 支援者 40 名(うち外国人 3 名:中国人 1 名、フィリピン 1 名、インドネシア 1 名) (日本語指導者 14 名、サポーター 26 名)						
開催時間数	総時間 12.5 時間			内訳 1.5 時間 × 7 回、2 時間 × 1 回			
目標	①日本語教室「Awesome IMARI」を知ってもらい、今後の活動に繋げる。 ②採択一年目で実施したニーズ調査の結果に基づき、テーマを設定し(①伊万里の防災、②郵便局、③銀行、④バスの乗り方、⑤日本人との交流)、伊万里市在住外国人の困っていることを解決できるよう、取り組む。 ③多様な年代の日本人とふれあうことによって、学習と交流の楽しさと魅力を感じてもらおう。 ④日常生活で日本人とコミュニケーションが取れるための日本語を身に付ける。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2022 年 9 月 4 日(日) 14:00~15:30	1.5	黒川コミュニティセンター (講堂)	20	伊万里の防災について	14:00~14:02 挨拶(まちづくり課 木寺洋司) 14:02~14:05 本日の流れの説明(中村多美子) 14:05~14:25 防災講話(防災危機管理課 濱田智史) 14:25~15:20 会話練習(伊万里の防災について) グループ①(中村多美子・松本裕史) グループ②(田中亮子・カルドノサバル) グループ③(山下由美・章潔) グループ④(鶴田クリスティーナ) グループ⑤(腰優子・喜々津珠美) 15:25~15:30 集合写真・片付け  ※参加者:インドネシア 9 名、ベトナム 7 名、フィリピン 3 人、タイ 1 名。	日本語指導者 9 名 サポーター 7 名
2	2022 年 9 月 25 日(日) 14:00~15:30	1.5	生涯学習センター (第 3 学習室)	16	伊万里の郵便局について	14:00~14:02 挨拶(喜々津珠美) 14:02~14:05 本日の流れの説明(章潔) 14:05~14:40 会話練習①(郵便局について)	日本語指導者 10 名 サポーター 4 名

					<p>グループ①(松本裕史・カ ルドノサバル) グループ②(田中亮子) グループ③(吉村恭太) グループ④(鶴田クリステ ーナ) グループ⑤(腰優子) グループ⑥(橋口京子) グループ⑦(山下由美) グループ⑧(喜々津珠美) 14:40~15:25 グループ発表②(日本の郵 便局・自国の郵便局につ いて) グループ①(アリフィン・「 インドネシア」) グループ②(シディック・「 インドネシア」) グループ③(ワン・「タイ」) グループ④(タオ・「ベトナ ム」) グループ⑤(リドワン・「 インドネシア」) グループ⑥(チャ・「ベトナ ム」) グループ⑦(ズエン・「ベトナ ム」) 15:25~15:30 まとめ(章潔) 集合写真・片付け</p> <p>※参加者:インドネシア 7 名、ベトナム 8 名、タイ 1 名。</p>	
3	2022年 10月9日(日) 14:00~15: 30	1.5	生涯学習 センター (第3学習 室)	10	伊万里の銀行に ついて 14:00~14:02 挨拶(腰優子) 14:02~14:30 講話「ATM の使用につ いて」(伊万里信用金庫 池 田彩香) 14:30~15:25 会話練習 グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(中村多美子) グループ④(喜々津珠美) グループ⑤(腰優子) グループ⑥(鶴田クリステ ーナ) グループ⑦(吉村恭太・章 潔) グループ⑧(山下由美・カ ルドノ) 15:25~15:30 まとめ(章潔)  ※参加者:インドネシア 3 名、ベトナム 7 名。	日本語指導者 11 名 サポーター5 名
4	2022年 10月30日 (日) 14:00~15: 30	1.5	武雄市中 央公園・ま ちなか広 場	12	日本人との交流 ①「バザーでも のを売る」 14:00~14:50 学習者たちが 2022 さが国 際フェスタの来場者に日本 語教室「Awesome IMARI」 の取り組みを紹介	日本語指導者 6 名 サポーター9 名

					<p>14:50~15:30 学習者たちがやきものを売る(バザー)</p> <p>※参加者:インドネシア 11名、ベトナム 1名。 バザーの売上額:12,447円</p>	
5	<p>2022年 11月20日 (日) 14:00~15:30</p>	1.5	<p>黒川コミュニティセンター (講堂)</p>	<p>バスに乗って、 買い物に行こう ①</p>	<p>14:00~14:02 挨拶(福井英行) 14:02~14:50 会話練習①「バスの乗り方」 グループ①(中村章、カルドノ) グループ②(小島利津) グループ③(中村多美子) グループ④(喜々津珠美) グループ⑤(腰優子、山下由美) グループ⑥(鶴田クリスティーナ) グループ⑦(松本裕史) グループ⑧(福井英行) 14:50~15:25 会話練習②「買い物リストの作成」 グループ(同上) 15:25~15:30 まとめ(章潔)</p> <p>※参加者:インドネシア 5名、ベトナム 5名、韓国 2名、フィリピン 2名。</p>	<p>日本語指導者 11名 サポーター2名</p>
6	<p>2022年 11月23日 (水・祝) 14:00~16:00</p>	2	<p>黒川コミュニティセンター (講堂)</p>	<p>バスに乗って、 買い物に行こう ②</p>	<p>14:00~14:02 挨拶(小島利津) 14:02~14:20 事前確認「バスの乗り方など」 グループ①(中村章、中村多美子) グループ②(小島利津) グループ③(福井英行、山下由美) グループ④(喜々津珠美) グループ⑤(腰優子) グループ⑥(鶴田クリスティーナ) グループ⑦(松本裕史、カルドノ) 14:37~14:47 バスに乗る(黒川→辺古島) ※学習者のみ</p> <p>14:47~15:00 下車後、帰りの時刻表を確認 グループ(同上) 15:00~15:40 買い物 15:40~15:50</p>	<p>日本語指導者 11名 サポーター3名</p> <p>※アドバイザー2名視察(仙田、高柳)</p>

					<p>指導者の車で黒川コミュニティーセンターまで移動(グループ同上) 15:50~16:00 まとめ、解散</p> <p>※参加者:インドネシア 5名、ベトナム 3名、中国 1名。</p>	
7	<p>2022年 12月18日(日) 10:00~11:30</p>	1.5	<p>立花コミュニティーセンター (講堂・和室・研修室)</p>	25	<p>日本人との交流 ②「門松を作ろう」</p> <p>10:00~10:02 挨拶(松本裕史) 10:02~10:05 グループ分け(門松班、書初め班、カルタ班) 10:05~10:45 研修室: グループ①(門松班:松本裕史、鶴田クリスティーナ) グループ②(書初め班:富場康、小島利津、山下由美、田中亮子) 和室: グループ③(カルタ班:喜々津珠美、腰優子、カルドノ、章潔) 10:45~11:25 講堂: グループ①(門松班:松本裕史、鶴田クリスティーナ) 研修室: グループ③(書初め班:富場康、小島利津、山下由美、田中亮子) 和室: グループ②(カルタ班:喜々津珠美、腰優子、カルドノ、章潔) 11:25~11:30 集合写真、まとめ、片付け</p> <p>※参加者:インドネシア 12名、ベトナム 6名、中国 5名、ミャンマー1名、タイ 1名。</p>	<p>日本語指導者 9名 サポーター8名</p> <p>※長崎県・長崎国際交流協会視察9名 種岡裕子(長崎市)、片山裕喜(佐世保市)、吉川洋祐(島原市)、元永彩花(大村市)、明石菟子(松浦市)、庄司貴繁・川端千翔(長崎県)、山田芳則・吉用恵子(長崎国際交流協会)</p>
8	<p>2023年 1月29日(日) 14:00~15:30</p>	1.5	<p>黒川コミュニティーセンター (講堂)</p>	16	<p>日本人との交流 ③「国際交流ひろば」</p> <p>14:00~14:02 挨拶(鶴田クリスティーナ) 14:02~14:20 ① ケニアについて(講師:ダニエル) ② タイについて(講師:ワン) ③ インドネシアについて(講師:アメリカ) 14:20~15:25 ① インドネシアの遊び「楽器」(講師:アメリカ) ② タイの遊び「ハンカチダンス」(講師:ワン) ③ ケニアの遊び「ドッジボール」(講師:ダニエル) ④ 日本人の小学生と一緒にドッジボールを遊ぶ</p>	<p>日本語指導者 12名 伊万里市小学生 16名、保護者 13名 サポーター4名 指導者養成講座参加者:9名</p>

			15:25~15:30 集合写真、小学生にお菓子セットを渡す、片付け、解散。  ※参加者:ケニア1名、インドネシア13名、タイ1名、コロンビア1名。	
--	--	--	-------------------------------------------------------------------------------------	--

【主な活動】



第1回日本語教室「Awesome IMARI」  
(2022年9月4日)



第6回日本語教室「Awesome IMARI」  
(2022年11月23日)



第8回日本語教室「Awesome IMARI」  
(2023年1月29日)

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	<p>問題:</p> <p>1. 教室の開催方式をハイブリッド式(ZOOM+対面)にしたかったが、①技術的に、オンライン開催にはインターネット環境やデバイスの問題があり、対面と同時に開催すると、スムーズな運営が難しい、②人的に、指導者のスキルアップが必要となる、③学習者によっては、ネット環境とデバイスの問題で、オンラインでの教室参加が困難な場合がある、④時間的に、教室内容の時間配分がZOOMと対面ではそれぞれ異なる場合があり、進め方を考慮しなければならず、運営が複雑になる、などの障壁があり、なかなか実現できない。</p> <p>2. 教室の第5.6回は「バスの乗り方」(1回目は座学で時刻表の見方などについて学ぶ「11/20、参加者14名」、2回目は実際にバスに乗って実践的な学びを行う「11/23、参加者9名」という内容だったが、当初「学習者が2回とも参加」を想定したが、1回のみ参加者が多かった。理由としては、「参加日程が合わない」、「都合がつかなかった」ということが挙げられる。</p> <p>対応策</p> <p>1. ハイブリッド式開催のための対応策としては、①ネット環境やデバイスなどの問題に詳しい専門の技術スタッフを配置する、②指導者陣のスキルアップ、③オンライン教室の受信環境やデバイスの提供、配信方法についての説明など学習者支援を行う、④教室の時間配分、進め方、配信方法などの調整で、運営体制を見直す、などが考えられる。</p> <p>2. 2回参加が必要とされる内容であるにもかかわらず、学習者が1回のみ参加したことが問題点である。①別の日程を設けたり、より柔軟な参加方法を提供する、②教室の目的、内容などを十分に説明し、学習者が疑問を持たないようにする、③教室の学習者の日本語力にばらつきがあり、指導者らは参加者のレベル差に応じた対策を講じる必要がある、などが対応策として挙げられる。</p>
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語指導者養成講座	令和4年10月～令和5年1月 (全8回)	日本語教室「Awesome IMARI」でサポーターとして活躍できる人材を育成し、継続的な日本語指導体制を構築するために、全8回の養成講座を開催した。 【内容】(第1回～第7回の時間:18:30～19:30、60分/回、第8回の時間:14:00～15:30、90分)  第1回:10月20日(木)、場所:市民活動支援センター、テーマ「ZOOMミーティングの使い方について」

		<p>講師 1 名:章潔(伊万里市多文化共生マネージャー)、参加者数 6 人</p> <p>第 2 回:10 月 21 日(金)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の目的・目標」 講師 1 名:仙田武司(文化庁アドバイザー)、参加者数 27 人</p> <p>第 3 回:11 月 18 日(金)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「伊万里市の多文化共生について」 講師 1 名:章潔(伊万里市多文化共生マネージャー)、参加者数 21 人</p> <p>第 4 回:11 月 24 日(木)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「地域日本語教育の実施体制と支援者の役割」 講師 1 名:高柳香代(文化庁アドバイザー)、参加者数 23 人</p> <p>第 5 回:12 月 12 日(月)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「初級者への指導法や教材について」 講師 1 名:小嶋栄子(元長崎短期大学教授)、参加者数 22 人</p> <p>第 6 回:12 月 19 日(月)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「中上級者への指導法や教材について」 講師 1 名:小嶋栄子(元長崎短期大学教授)、参加者数 17 人</p> <p>第 7 回:2023 年 1 月 23 日(月)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「教案の作成」 講師 1 名:小嶋栄子(元長崎短期大学教授)、参加者数 17 人</p> <p>第 8 回:1 月 29 日(日)、場所:黒川コミュニティセンター、テーマ「日本語教室 Awesome IMARI を見学しよう」 講師 1 名:章潔(伊万里市多文化共生マネージャー)、参加者数 14 人</p>
さが国際フェスタ月間	令和 4 年 10 月 24 日(月)～31 日(月) 9:00～17:00	<p>日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、近隣市である武雄市(中央公園・まちなか広場)で開催された多文化共生フェスタ(10 月 30 日)にブース出展した。なお、来場者は 2000 名程度おり、当市の取組を説明し、理解促進を図った。</p> <p>そして、このフェスタ月間中(10 月 24 日～31 日)、佐賀商工ビル1階(通路)で、「文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教室空白地域解消推進事業-地域日本語教育スタートアッププログラム」のパネル展示をした。来場者たち(200 名程度)に、日本語教室「Awesome IMARI」の取り組みを PR した。</p>
多文化共生関連講座	令和 4 年 9 月～令和 5 年 2 月(全 3 回)	<p>地域日本語教室を立ち上げるために、伊万里市民に対する多文化共生の意識啓発が必要である。そのため、市民を対象とする「多文化共生関連」講座を開催した。</p> <p>【内容】(全 3 回)</p> <p>第 1 回:9 月 4 日(日)10:00～11:30、オンライン(ZOOM)開催、テーマ:「外国人住民と共に地域防災を考える」 講師:菊池哲佳(文化庁アドバイザー) 受講者数:15 名</p> <p>第 2 回:令和 5 年 1 月 17 日(火)13:30～15:00、場所:伊万里市民図書館 テーマ:伊万里市シンポジウム「持続可能な地域日本語教室を目指して」 講師 3 名:西原鈴子、仙田武司、高柳香代(文化庁アドバイザー)、参加者数(団体):39。</p> <p>第 3 回:令和 5 年 2 月 27 日(月)13:15～14:15 テーマ:「①伊万里市の多文化共生について、②ゴミの分別について」、場所:名村造船所研修センター</p>

		講師 3 名:木寺洋司(伊万里市まちづくり課長)、章潔(伊万里市多文化共生マネージャー)、永田さつき(佐賀県国際交流協会相談員) 受講者数:18 名
--	--	-------------------------------------------------------------------------------

【主な活動】



さが国際フェスタ月間  
(2022 年 10 月 30 日)



第 2 回多文化共生関連講座  
(2023 年 1 月 17 日)



第 3 回多文化共生関連講座  
(2023 年 2 月 27 日)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね計画通り実施した。計画と実際の差が以下の 1 点のみ。 試行錯誤をしたが、教材作成できた数が計画どおりになっていない。
事業推進にあたり問題点と対応策	問題点: ①人材(コーディネーター、指導者、講師、教材作成者)のスキルアップ。 ②日本語教室「Awesome IMARI」の周知。 対応策: ①事業継続のため、引き続き人材(コーディネーター、指導者、講師、教材作成者)の発掘・養成・スキルアップを図る。そのため、定期的に指導者養成講座を開催し、また、県国際交流協会などと連携し、人材の紹介・斡旋・スカウトをする。 ②日本語教室「Awesome IMARI」の存在を認識してもらうために、市の HP、ケーブルテレビ、市報、SNS などにおける周知や周知用のチラシやカードの関係機関、市民への配布をする。また、市に転入した際に配布する転入バッグの中に教室のチラシを入れ、転入外国人住民に周知する。また、黒川コミュニティセンターや生涯学習センターだけではなく、外国人受入企業に出向いて、教室活動を開催する。
成果	(1)1 年目実施したニーズ調査の結果に基づき、「郵便局」、「銀行」、「バスの乗り方」など、伊万里市の特徴や学習者のニーズを把握したうえで、日本語教育プログラムを作成した。 (2)14名のコーディネーターを確保し、教室の運営の安定化を図った。また、今後の日本語教室の質の向上を目指すとともに、指導者養成講座の開催をはじめ、指導シート作成などの実践を通して、コーディネーター個人の教育能力やスキルの強化を促進した。 (3)企業訪問などを行い、受け入れの企業側と話し合い、意思疎通を図った。 (4)14名のコーディネーターからなるチーム日本語教室「Awesome IMARI」の体制づくりが充実され、事業ビジョンの共有、教室の目標設定、メンバーの役割分担、コミュニケーションの円滑化、情報共有などができ、チームワークが高まった。 (5)多様な文化や言語背景を持つ学習者との交流を通じて、相互理解や多文化共生の意識が醸成され、地域の国際交流促進につながった。 (6)日本語教育に関心のある地域住民が、コーディネーターとして参加することで、地域の人材育成に貢献した。 (7)「Awesome IMARI」の活動を通じて、地域の PR 効果があり、交流人口・定住人口の増加につながった。
地域の関係者との連携による効果	(1)行政や外国人の受入企業、市民団体などと連携し、「Awesome IMARI」の運営安定化を図った。 (2)「Awesome IMARI」の活動を通して、伊万里市在住外国人の希望、ニーズに応じた日本語教育を受ける機会を確保した。 (3)日本語教育の人材育成を継続的に行い、「Awesome IMARI」の質を向上した。 (4)「Awesome IMARI」を伊万里市の多文化共生の拠点として、地域の人々が外国人参加者と協力して行う活動が増えたことで、地域の活性化につながった。

	<p>(5)地域の外国人コミュニティと交流を深め、文化交流や国際理解の促進に寄与した。学習者が地域社会に受け入れやすくなり、地域の国際化が進んだ。地域住民が学習者に対して、受け入れる態度が変化し、国際的な視野を持つ市民が増加した。</p>
コーディネーターの主な活動	<p>(1)学習ニーズの把握  (2)地域住民への意識啓発  (3)学習環境の整備  (4)関係機関との連絡・調整  (5)日本語教室のPR  (6)日本語教室の企画・立案  (7)日本語教室の準備・実施  (8)日本語教室のカリキュラム、学習教材の作成</p>
アドバイザーの主な助言	<p>(1)教室自走時の注意事項と課題。  (2)他地域の先進的な取り組みの紹介。  (3)技能実習生の受け入れ側との調整、連携方法。  (4)日本語指導者養成講座の内容、指導のポイント。  (5)事務局の業務を一個人に集中させず、役割分担の適正化を図るべく。  (6)地元のメディアや広報誌を活用した情報発信、広報活動の充実化。</p>
今後の課題	<p>(1)市に日本語教育機関・学校がないため、県内の大学や地域日本語教室と協力し、情報交換や地域連携教室活動を実施する必要がある。また、市役所の関連部署(まちづくり課以外)や企業との情報共有も必要である。  (2)安定な運営を実現するために、リモート研修などを活用し、指導者等の人材育成を継続化する必要がある。  (3)行政をはじめ、各地域のコミュニティセンター、小中高、商工会議所などと連携し、「Awesome IMARI」のプログラムの質向上を図り、また、SNS や市報などを活用して情報発信を積極的に行い、外国人の教室参加を促進する必要がある。  (4)スタートアップ事業終了後の運営資金の獲得。  (5)学習者のニーズは多岐にわたるため、日本語教室のカリキュラムを充実させる必要がある。例えば、就職活動や日常生活に必要な会話力の向上、漢字や日本語表現力の強化などが考えられる。  (6)学習者の意欲向上を促すために、文化交流イベントや交流会を定期的に開催することが重要である。外国人同士の交流はもちろん、地域住民との交流も含めたイベントや活動を行うことで、参加者のモチベーションアップにつながる。  (7)教室の運営に必要な設備・備品の充実や、教室の場所や、施設・設備面の改善など。</p>
今後の予定	<p>(1)地域の関係機関との連携  外国人を受け入れている企業と連携し、日本語教室参加者の募集をする。教室の実施内容を、1年目に実施したニーズ調査に基づき、関連する警察署(交通安全)、防災危機管理課(災害時対応)、環境課(ゴミの分別)等に依頼し、協力を求める。また、指導者の発掘に当たっては市国際交流協会等と協力し、日本語教育サポーターの育成に取り組む。このような、地域の連携ネットワークを形成し、日本語教室を運営していく。  (日本語教室8回。参加学習者数15人/回×8=120人)</p> <p>(2)市民に対する意識啓発  広報やイベントの開催を通して、外国人が多く住んでいる地域だけではなく、より多くの伊万里市民に多文化共生と日本語教室の必要性をアピールする。  (多文化共生関連講座3回。参加者25人/×3=75人)</p> <p>(3)日本語教室の安定的運営に向けた検討  予算の獲得及び人材の確保と育成。  (日本語指導者養成講座8回。参加者数10人/回×8=80人)</p> <p>(4)デジタル技術を活用した日本語学習支援の導入  オンライン学習プラットフォームやアプリを活用し、学習者が自分のペースで学べる環境を整備する。また、デジタル技術を活用したクイズやゲームなどのアクティビティを導入することで、学習者のモチベーション向上を図る。  (オンライン日本語学習支援講座2回。参加者数20人/回×2=40人)</p> <p>(5)学習成果を発揮する場の提供  学習成果を発揮する機会を提供することで、学習者の自信をつける。例えば、地域のイベントや祭りでのパフォーマンスや発表、日本語で自国の文化を紹介するなどが挙げられる。  (日本語でのパフォーマンス・発表会1回。参加者数30人)</p>

(6) 学習者間の交流の促進

学習者同士が交流する場を設けることで、言語能力だけでなく、文化理解や人間関係のスキルも身に付けることができる。例えば、ランチ会や異文化交流イベントなどが挙げられる。  
(ランチ会・異文化交流イベント2回。参加者数 20 人/回 × 2 = 40 人)

本件担当：伊万里市役所まちづくり課多文化共生係